

令和元年度 長野県岡谷工業高等学校 学校評価 [最終報告]

学校番号 53 岡谷工業高等学校

1 学校教育目標と重点目標

(評価) A:十分 B:概ね十分 C:不十分

学校教育目標	重点目標(中・長期的目標)	内部評価	成果と課題	外部評価
<p>教育基本法ならびに学校教育法の精神に則って、次の目標を達成することに努める。</p> <p>(1) 人格の形成をめざし国家並びに社会の有為な形成者として必要な資質を養うため、一般教養を高める。</p> <p>(2) 日本の工業の建設発展の根幹である技術者として、地域に根ざした教育活動により、必要な技能・知識・態度を養成する。</p> <p>(3) 本校の伝統の校訓である質実剛健、至誠一貫の精神を涵養する。校是「技術者たる前に 人間たれ。」</p>	<p>地域社会から求められる生徒を育成し、より魅力有る工業高校の姿を求める。</p> <p>(1) 学力の一層の向上に努める。</p> <p>(2) クラブ活動の充実と活性化に努める。</p> <p>(3) 地域との連携により、社会に連動した魅力と活力のある学校づくりに努める。</p>		<p>工業高校の特色を活かし、地域との連携を積極的に行うことで、工業教育の活性化に努めている。</p> <p>各教科において、職員相互の授業参観週間を設け「わかる授業の展開」に心がけるとともに、基礎学力の定着などについて、関係委員会等で検討を重ねている。</p> <p>部活動において、地道に活動を積み重ね、結果として大会成績があがるように努力している。</p> <p>各学科の特色を活かし、小学生や中学生を対象にしたものづくり教室の開催や地域のイベントに出展を行うなど、本校のものづくり教育について積極的にPRを行っている。また、地域の大学との連携を深めることで、実習、課題研究において専門的な知識・技術を高めている。</p>	A
	<p>重点目標(中・長期的目標)</p>	内部評価	成果と課題	外部評価
	<p>(1) 生徒の学力を伸ばし、進路実現へとつながる教育</p> <p>ア 観点別評価のフィードバックと授業改善による個に応じた指導と学力の向上</p> <p>イ 授業公開・参観による教員の資質・能力の向上</p> <p>ウ インターンシップをはじめ、キャリア教育の充実による、社会を担い貢献できる生徒の育成</p> <p>エ コミュニケーション能力や情報活用・発信能力に優れた人材の育成</p>	B	<p>2年生全員を対象に実施しているインターンシップは岡谷市や地元企業の協力をいただき、実施内容や報告会の中身も充実してきている。受け入れ先の開拓や報告会の発表方法等についてさらに充実したものになるよう準備していきたい。</p> <p>インターンシップは、多くの生徒に職業観の形成や積極的な進路選択、社会人のマナーの会得など効果がみられる。</p> <p>インターンシップ報告会に向けて準備をする中で、プレゼンテーション能力や、コミュニケーション能力の向上につながる支援ができています。</p>	A
<p>(2) 生徒一人ひとりが、安全で生き生きと充実した高校生活をおくる環境づくり</p> <p>ア 挨拶の励行、清掃の徹底による学習環境の整備(5Sの徹底)</p> <p>イ 各種コンテスト、資格取得や技能検定の情報提供と積極的な挑戦</p> <p>ウ 生徒会活動、部活動の一層の充実</p> <p>エ いじめ、体罰のない安心安全な学校</p> <p>オ 支援を必要とする生徒や悩みを抱える生徒への相談・支援の充実</p> <p>カ 情報モラル教育の計画的な指導(HR、学年、生徒指導、進路指導 連携)</p>	B	<p>学習環境の整備(5Sの徹底)には改善の余地がある。何度末まで見直しを行い安心・安全な学校づくりを図る</p> <p>専門的知識を生かし、上半期においても各種資格や技能検定の合格者が多数出ている、ものづくりコンテストへの取り組みは、「電子回路組立部門」「化学分析部門」とも北信越大会に出場した。それぞれが専門的技術の向上を目指し努力している。</p> <p>生徒指導では教育相談を含め、学級担任、生活指導係、人権特別支援委員会、スクールカウンセラー、地域サポート機関と連携をとりながら、生徒や保護者の悩みに寄り添う支援を行っている。</p> <p>いじめについては、日頃から注意深く見守るように心がけるとともに、いじめ防止等人権特別支援委員会を設置し、その予防に努める。</p> <p>高校生が利用するインターネットの適正な利用の仕方について、生徒・保護者対象の講演会を行い、ネットトラブルの対策について理解を深めた。</p>	A	

学校教育目標	重点目標（中・長期的目標）	内部評価	成果と課題	外部評価
<p>教育基本法ならびに学校教育法の精神に則って、次の目標を達成することに努める。</p> <p>(1) 人格の形成をめざし国家並びに社会の有為な形成者として必要な資質を養うため、一般教養を高める。</p> <p>(2) 日本の工業の建設発展の根幹である技術者として、地域に根ざした教育活動により、必要な技能・知識・態度を養成する。</p> <p>(3) 本校の伝統の校訓である質実剛健、至誠一貫の精神を涵養する。校是「技術者たる前に人間たれ。」</p>	<p>(3) 地域に根ざし、地域の期待に応える、開かれた学校づくり</p> <p>ア 学校開放・地域貢献・地域連携・地域活性化・ボランティア活動への取り組み</p> <p>イ 国・県の指定事業、各種団体の助成事業の積極的な活用</p> <p>ウ 広報活動の強化（HP等による積極的な紹介、工業高校の存在意義の再確認）</p> <p>エ 小中学校におけるキャリア教育での連携</p> <p>オ 本校の将来構想について検討の推進</p> <p>カ 地域清掃活動</p> <p>キ 地域の子どもたちから「あこがれの岡工生」としてみられる生徒の育成</p>	B	<p>「諏訪圏工業メッセ2019」「岡谷エコフェスティバル」「南信工科短大人材ふれあいフェア」等への出展および体験教室を開くなど、地域企業が行っているものづくりに触れるとともに、本校のものづくり教育についてPRすることができた。HPをリニューアルし積極的に学校活動についての発信を行うことができた。信州自然エネルギー・環境教育支援事業、岡谷エコロータリー助成、同窓会ものづくり支援などの助成事業にも継続して指定され、教育活動の活性化のために支援をいただいている。今年も工業の町岡谷にある専門高校として、「質実剛健・至誠一貫」「技術者たる前に人間たれ」の校訓・校是のもと、工業教育による人格の陶冶、優秀な技術者の養成を目指してさまざまな教育を行っている。卒業後も特に工業関連の企業から、岡工生の勤勉で積極的な働きぶりには良い評価をいただいております。地域の子どもたちからも「あこがれ」られる実績をよりいっそう確かなものとしたい。</p>	A

## 2 評価項目と評価の観点

領域	対象	評価項目	評価の観点	内部評価	成果と課題	外部評価
教育活動	教育課程	教育課程の編成と検証	学習指導要領に従った現教育課程は、生徒の実態や希望に、また、地域の産業界の要望に応じたもので、生徒の学力を向上させるものであるか。	B	教育課程では、3年次の選択科目にて生徒の実態や進路希望に合わせた学習とした。また、新学習指導要領に合わせて本校の新カリキュラムの検討を進めている。	B
		選択制の実施	生徒の実態と要望に応じた多様な科目設定、並びにそれぞれの進路に応じた適切な科目選択指導が行われたか。	B	本校の実情に合わせて、多様な選択科目を選べるよう調査し進路希望に沿う指導を実施した。	A
	学習指導	習熟度別学習・学力の向上	生徒の実態に即した分かり易い授業の実践、学力や進路、資格取得に対応した補習授業の実施など、手厚い学習指導を通して生徒の意欲や基礎学力の向上に努めることができたか。又、習熟度別学習の導入により、それぞれの講座で目標とする学習効果をあげることができたか。	B	学年・教科と連携し、放課後や長期休業中に補習授業を実施している。3年の進学希望者へは英語・数学・物理の補習を1月まで実施できた。資格取得では生徒に実施内容を伝え、学習意欲向上につなげている。今後も学力向上のための授業を更に研究・実施したい。	A
		開かれた学校教育	開かれた学校教育を目指し、シラバスの公開や授業公開などを実施し教育活動を周知することができたか。また、その活動を通して授業改善や教員の資質能力の向上に寄与できたか。	A	授業公開を春（4月）と秋（10月）に実施した。本校保護者・中学生・中学生保護者に本校の教育活動を周知できた。地域の方や本校保護者の参加が更に望まれる。シラバスは、4月中旬に公開できた。授業公開はシラバスの公開と共に開かれた学校教育を実現する意義のある活動となった。授業アンケートを年2回実施。	B
	保護者との協力体制	学習指導に関して、入学式や地区PTAなど機会を捉えて保護者への説明ができたか。家庭連絡書などにより、保護者との連絡を密にした学習指導が実施できたか。	A	今年度も入学式や地区PTAにおいて、資料に基づきながら、本校の学習指導について説明できた。今後も成績不振など問題のある時は、家庭連絡書を利用したり、早めに電話連絡などで状況を報告し、お互いに情報を共有しながら対応していきたい。	B	

領域	対象	評価項目	評価の観点	内部評価	成果と課題	外部評価
教育活動	生徒指導	家庭との連携	家庭や学校生活での行動の変化等の心配事や、事件・事故・問題行動発生時等に速やかに対応できるように家庭との連携が取れているか。	A	入学式・地区PTA・保護者懇談会を通して、本校の生徒指導の基本方針を保護者へ説明することができた。問題発生時には、クラス担任だけに任せず関係部署と連絡を取り合い、保護者に説明し情報を共有しながら対応した。	B
		生徒への意識啓発	校内外で起こりうる事件・事故に対して正しく対処するにはどうしたらよいか考えさせ、また、常識ある行動を取れるように指導したか。	B	生徒指導通信等を通じて機会ある度に生徒全体に投げかけを行い、問題点を生徒自ら考え、自覚ある行動を取れるように指導してきた。 また、交通安全、ネット使用にあたっての危険性や留意点、薬物乱用防止については、講習会を実施し生徒に注意喚起を行った。 しかし、自転車運転のマナーについては警察とも密接な連携をとって指導を行ってきたが、地域からの苦情は絶えず、今後も粘り強く取り組む必要がある。	B
		相談体制の充実	生徒が相談しやすい校内体制を整備し、それが安心安全な学校生活につながったか。	B	全校生徒に対し2回の「学校生活アンケート」を実施した。必要な情報を共有し、担任・養護教諭・教育相談および特別支援の各コーディネーターが状況により相談相手となっている。特に注意が必要な場合は生徒指導係が慎重に対応している。	B
		手続きのアカウントビリティ（説明責任）	生徒指導上の「指導」において、その根拠や手続きについて生徒や保護者に十分な説明と理解がされているか。	A	様々な状況下において発生する問題行動への対応は、その都度係内で検討しながら最善の策を模索して実際の指導に当たることができた。今後も保護者が納得した上で協力してもらえよう環境作りをして取り組んでいきたい。	B
		職員協力体制の確立	日常の生徒指導において、全職員の協力体制ができているか。	B	当番制による全職員の校内巡視を実施し、空き教室での問題行動予防と普段の校内の様子を共通認識する取り組みを行った。 また、保健室には悩みを持った生徒が集まる傾向があり、多くの職員が保健室へ足を運ぶことにより、養護教諭の感じた生徒の実態を全職員で共有し問題解決に向けて取り組む体制づくりを進めている。職員が同じ認識をもち、同じ指導をすることが必要であり、科・係・学年など関係した部署で連携を取りながら今後も取り組んでいきたい。	B
	進路指導	進路希望に応じた進路の実現	生徒への進路情報の提供及び進路相談業務を通して、生徒の希望・能力・適性に応じた進路がかなえられるよう指導援助できたか。	B	3年については7月の保護者懇談会にて最終の進路希望を確認した。1月30日時点で、企業への就職希望者91名全員が内定をいただき、公務員は1名が合格した。進学希望者は、90名中84名が合格した。一般入学試験で結果待ちの生徒もいるが、未決定の生徒に対して希望する進路が実現するように担任と連携して進路指導を実施中である。	A
		進路情報の収集	入試説明会や学校訪問に参加し、また、事業所訪問や求人票の受付業務等を通して、より詳細な情報提供ができたか。 生徒が情報を得やすいように進路指導室および進路資料室を整備できたか。	A	3学年担任と共に事業所への訪問や大学見学、入試説明会に積極的に参加し、生徒に伝える情報収集に努めてきた。また、内定後も進路係・就職活動員とともに企業を訪問し、今年度の状況および来年度への課題等をまとめて1・2学年担任に伝え、生徒へも情報提供を行っている。	A
		職業意識の形成	適切な進路計画の設定・実施を行ったか（インターンシップ・事業所見学・進学ガイダンス・模擬試験・進路講話など）。	A	2学年でのインターンシップを始めとする進路ガイダンス・進学相談会・進路講話等とおして、生徒の職業意識の形成を図っている。3年生での進路選択するうえでとても有益であり、生徒の職業意識の形成を育むことで職業選択につながっている。	A

領域	対象	評価項目	評価の観点	内部評価	成果と課題	外部評価
特別教育活動	生徒会	生徒の自主活動	生徒会活動が自主的、主体的にできるよう本部役員が企画運営を考え活動する中で、達成感や充実感を得ることができたか。また、全校生徒が生徒会活動に対して意識を向上させることができたか。	A	朝の挨拶運動、岡工祭イベント等計画どおりに行えた。岡工祭では約1700名の来場者があり、工業高校ならではの展示、発表を見て楽しんでいただいた。また、岡工祭で行ったチャリティーマーケット・チャリティーTシャツの収益金56,480円を岡谷市をとおして日本赤十字社の台風19号による災害の義援金として送付していただいた。外部団体との関わりでは、岡谷市町づくり会議で岡谷市の将来を高校生の視点で意見交換し、実現に向けて取り組みをしたり、岡谷駅前での挨拶運動やタウンミーティング2019にも積極的に参加をした。今後も、生徒の自主性を大切にしつつ、継続して活動していきたい。	A
		部活動の充実	部活動に入っている生徒が日常のクラブ活動を充実させ、各クラブや各自が定めた目標に向けて意欲的に取り組めたか。また、各クラブの活躍を、学校内外に広く伝え、活動の励みにすることができたか。	B	運動系クラブ活動ではラグビー部とバレー部が新人戦県大会で優勝し北信越大会に、文化系クラブ活動では電気部が全国大会に出場を決めた。大会結果は随時学校のホームページにアップし、生徒会誌にも載せ伝えている。また各新聞にも取り上げられてもいる。	A
学校運営	教務	より良い学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>各係、委員会等との組織的な連携を図り、効率的な業務の推進に努めたか。</li> <li>学校全体のバランスを見据え、諸行事の計画および実施において、より良い学校運営に努めたか。</li> </ul>	B	教務係内の協力体制を作り、常に学校全体の流れを視野に入れながら、時には分掌の枠を超えた連携を図り、円滑な学校運営に努めた。綿密な計画のもと、職員会議で早めの提案および質疑を行うことで、職員間の意思疎通が高まると共に、適切な支援とサポートを行うことで、大きな混乱もなく学校運営が行われている。学校全般にわたる諸行事に対して、担当者及び係に対して協力して行うことにより大きな混乱もなく行事を終えることができた。	B
		地域に開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校要覧、学校案内、学校パンフレット等を利用して、学校の魅力と特徴を発信し、地域にアピールすることができたか。</li> <li>体験入学、学校見学等により、地域の中学生や保護者に対して、本校の教育活動を正しく理解してもらうことができたか。</li> </ul>	B	ホームページの管理と充実、学校パンフレット(1500部印刷)の有効利用等、随時積極的な情報発信に努めた。7月の体験入学(見学)では生徒245名、9月の体験入学(体験)では生徒170名の参加者があり、アンケート結果からも好評であった。岡工トビックス(新聞掲載記事の冊子)を編集し、本校生徒の活躍を記録に残し、諸行事・会議において配布した。	A
		入学者選抜業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学者選抜説明会等を利用して、本校と募集の観点に沿った適切な説明を行うことができたか。</li> <li>前期選抜および後期選抜ともに、綿密な計画のもとに、的確な選抜業務を行うことができたか。</li> </ul>	B	10月の入学者選抜説明会では、本校に入学実績のある18校の中学校の進路担当者が出席した。質疑応答では多くの質問があり、中学校の先生方からは高評価であった。また希望のある5校には別途個別の中学校訪問を行う予定である。11月には入学者選抜説明会およびクラブ見学会(中学生・保護者向け)に生徒・保護者合わせて122名の参加があり、学校のアピールを行う事ができた。また、アンケート結果からも好評であった。面接試験の方法や評価について再確認を行い、より適正な入学者選抜試験に備えている。	A